

白井市

第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画策定に
向けての基礎調査報告書【概要版】

音声コード付

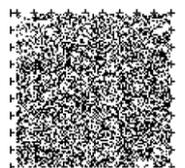
令和5年7月

白井市

この報告書には、ページ下部に音声コードがついています。
ご利用になる場合は、お手持ちのスマートフォン等で
Uni-Voice アプリをインストールしてください。



Uni-Voice Blind



Ⅰ アンケート調査の実施概要

■調査の目的

本調査は「第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画」策定に向けて、障害福祉サービス等（障害福祉サービス、相談支援、地域生活支援事業及び障害児支援サービス）のそれぞれについて、種類ごとの潜在ニーズを把握することと、より効果的・効率的な障害福祉サービス等の実施に向け、利用者等の意見や生活の様子を把握することを目的に実施しました。

■調査の実施概要

調査は、各障害者手帳所持者（無作為抽出）および障害児通所支援支給決定児（全数）を対象に実施しました。各調査の対象者、方法、回収結果等は次のとおりです。

身体障がいのある対象者は580人、うち338人から回答があり、回収率は58.3%でした。

知的障がいのある対象者は114人、うち55人から回答があり、回収率は48.2%でした。

精神障がいのある対象者は201人、うち100人から回答があり、回収率は49.8%でした。

障害児通所支援支給決定児は294人、うち157人から回答があり、回収率は53.4%でした。

全ての対象者は合わせて1,189人、うち650人から回答があり、全体の回収率は54.7%でした。

■調査方法

郵送による配布、回収

■調査期間

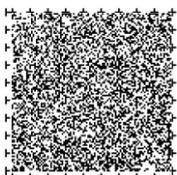
令和5年1月5日（木）～令和5年1月25日（水）

※集計には、2月7日までの返送を含めます。

■報告書を見る際の留意点

●回答率について

- ・比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。このため、比率の合計は100%とならない場合があります。
- ・基数となる実数は、グラフ中に「回答者」として掲載し、各グラフの比率は「回答者」数を母数とした割合を示しています。
- ・1人の回答者が複数回答することができる設問では、比率の合計が100%を超えることがあります。



アンケート調査結果の概要

身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者（18歳以上）を対象とした調査結果です。

【回答者について】

- ▶身体障がい者の約3割が介護保険の認定をもっています。
- ▶知的障がい者の約3.5割が、発達障害の診断を受けたことがあります。
- ▶受けている医療的ケアで多いのは、「継続的な透析」「薬剤の持続投与」「モニター測定」となっています。

- 介護保険の認定は、身体障がい者の約3割が受けています。身体障がい者については、65歳以上の高齢者が多いことから、介護保険の認定者が多いものと考えられます。利用している介護保険のサービスは、デイサービス・デイケアでした。
- 発達障害については、知的障がい者の34.5%が「診断されたことがある」と回答されました。高次脳機能障害については、身体障がい者の2.6%が「診断されたことがある」と回答されました。医療的ケアについては、身体障がい者の約3割、知的障がい者の約1割が受けている状況にあります。受けている医療的ケアとしては、「継続的な透析」「薬剤の持続投与」「モニター測定」が多くなっています。

【現在の暮らし】

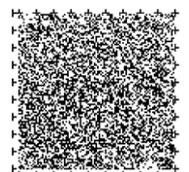
- ▶身体・知的・精神障がい者の大半が、ご家族と暮らしています。
- ▶ひとり暮らしをしているのは、身体障がい者の約12%、知的障がい者の約2%、精神障がい者の約7%です。
- ▶知的障がい者の約9%がグループホームで暮らしています。

- 身体・知的・精神障がい者のいずれも、8割～9割の方がご家族と暮らしています。ひとり暮らしについては、身体障がい者の11.6%、知的障がい者の1.6%、精神障がい者の7.1%となっています。知的障がい者の9.1%が、グループホームで生活されています。

【今後3年間の暮らしの希望・必要なお手伝い】

- ▶今後3年以内の暮らしの希望としては、身体・知的・精神障がい者の多くが、「今のままで良い」と考えています。知的障がい者の約15%が「同じ障がいのある人と、グループホームなどで暮らしたい」と回答されています。

- ▶希望する暮らしをかなえるために必要なお手伝いとしては、身体障がい者は、「特にない」との回答が最も多く、知的・精神障がい者については、「日々の相談に乗ってくれる人の存在」が最も多くなっています。



- 今後3年以内の暮らしの希望としては、身体・知的・精神障がい者のいずれも、6割～7割の方が「今のままで良い」と回答されています。他には、身体障がい者の11%が「親族の介助や、在宅福祉サービスを利用して、家庭で生活したい」、知的障がい者の15%が「同じ障がいのある人と、グループホームなどで暮らしたい」、精神障がい者の17%が「親族だけに世話をしてもらって、家庭で生活したい」と考えておられ、比較的割合が高くなっています。
- 今後の希望する暮らしを実現するために、必要な支援としては、身体障がい者については、「必要な支援は特にない」との回答が最も多く、知的・精神障がい者については、「日々の相談に乗ってくれる人の存在」が最も多くなっています。その他、「家事の手助け」や「日中の通いの場」を希望する声も多くなっています。

み まわり かいじょしゃ
【身の回りの介助者】

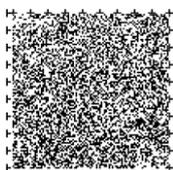
- ▶身の回りの介助者は、身体障がい者では配偶者が、知的・精神障がい者は親が最も多くなっています。
- ▶介助者の年齢は、身体障がい者については75歳以上が他の障がいより多くなっています。23歳未満、15歳未満という、若い世代の介助者もいます。
- ▶介助者について心配な点は、介助者に身体の衰えがあるという回答が最も多くなりました。

- 身の回りの介助者は、身体障がい者では配偶者が、知的・精神障がい者は親が最も多くなっています。
- 介助者の年齢は、身体障がい者では75歳以上が約3割となっています。23歳未満の介助者は、身体障がい者の2.1%、知的障がい者の12.1%、精神障がい者の7.5%にあり、精神障がい者については、2.5%が15歳未満となっています。
- 介助者について心配な点を伺ったところ、身体・知的・精神障がい者のいずれも、「介助者に身体の衰えがある」が最も多くなりました。「介助者が、仕事や学校を休むほか、遅刻・早退する必要がある」という状況も、約1割～2割の方にみられました。

がいしゅつ
【外出について】

- ▶外出の際に困っていることについては、「困っていることは特にない」が最も多かったです。
- ▶次に困っていることは、「移動にかかる費用が高い」「心身の障がいや病状のため、電車・バスなどへの乗車が困難」ということでした。

- 外出の時の交通手段は身体・知的・精神障がい者のいずれも、「徒歩」「自家用車(乗せてもらう)」「電車」が比較的多くなっています。身体障がい者については、自家用車(自分で運転)やオートバイの回答が他の障がいより比較的多い一方で、コミュニティバスナッシー号や路線バスの利用が比較的少なくなっています。
- 外出の際に困っていることについては、いずれの障がい者も、「困っていることは特にない」が最も多く、次いで多かったのは、「移動にかかる費用が高い」でした。「その他」を除いて、次に多かったのは、「心身の障がいや病状のため、電車・バスなどへの乗車が困難」という回答でした。



【新型コロナウイルスの流行で起きたこと・困ったこと】

▶新型コロナウイルスの流行で起きたこと・困ったこととしては、「家族・親戚・友人などに会う機会が減った」・「外出の頻度が少なくなった」が最も多かったです。

▶精神障がい者については、「不安を強く感じたり、いらいらした」「検査やワクチンを受けるのに苦労した」との困りごとと比較的によくみられました。

- 新型コロナウイルスの感染症の流行に関して起きたこと、困ったこととしては、身体・知的・精神障がい者のいずれも、「家族・親戚・友人などに会う機会が減った」・「外出の頻度が少なくなった」との回答が多数となりました。精神障がい者については、「不安を強く感じたり、いらいらした」「検査やワクチンを受けるのに苦労した」との困りごとと比較的によくみられました。

【精神科や心療内科に初めて受診するのに苦労したこと】

▶精神科や心療内科などの医療機関に初めて受診するのに苦労したことについては、「気持ち面の抵抗が強かった」が最も多く、次に「医療機関が遠くて受診が難しかった」ということでした。

- 精神障がい者に、精神科や心療内科などの医療機関に初めて受診するのに苦労したことについて伺ったところ、「気持ち面の抵抗が強かった」との回答が46.0%で最も多く、次いで「医療機関が遠くて受診が難しかった」が多くなりました。

【今後3年以内の障害福祉サービスの利用について】

▶新たに利用予定のサービスとしては、短期入所（ショートステイ）、自立訓練、日中一時支援事業、地域活動支援センター、福祉タクシー事業があげられました。

▶利用を希望しているが利用していないサービスとしては、福祉タクシー事業、短期入所（ショートステイ）、地域活動支援センターがあります。

▶利用を希望しているが利用していない理由は「利用の基準にあてはまらず利用できないため」ということのほか、「利用の手続きが分からず利用できないため」という理由もありました。新型コロナウイルスで利用を控えていた、という回答もありました。

- 障害福祉サービス・地域生活支援事業の利用状況と、今後3年間の利用予定としては、「新たに利用予定」とのサービスが多かったものが、短期入所（ショートステイ）、自立訓練（機能・生活訓練）、日中一時支援事業、計画相談支援でした。



- 地域移行支援の利用希望は、身体障がい者で5.0%、知的障がい者で14.5%、精神障がい者で11.0%の方が「新たに利用したい」と回答されました。地域定着支援の利用希望は、身体障がい者で7.4%、知的障がい者で14.5%、精神障がい者で15.0%の方が「新たに利用したい」と回答されました。
- 市の障害福祉サービスの利用状況と今後3年間の利用予定について、「新たに利用予定」との回答が多かったサービスは、地域活動支援センター、福祉タクシー事業でした。
- 利用を希望しているが、利用していないサービスについては、身体障がい者の12.7%、知的障がい者の21.8%、精神障がい者の約24.0%で「ある」との回答でした。利用を希望しているが利用していないサービスは、「福祉タクシー事業」が23.5%で最も多く、次いで「短期入所」「地域活動支援センター」となりました。
- 利用希望があるが利用していないサービスがあると回答した方について、利用していない理由を伺いました。身体障がい者については、「利用の基準にあてはまらず利用できないため」が最も多く、30.6%でした。知的障がい者については「その他」が最も多く、精神障がい者は、「利用の基準にあてはまらず利用できないため」「利用の手続きが分からず利用できないため」「サービスがあることを知らなかったため」との回答が多いという結果になりました。「その他」の理由としては、新型コロナウイルスの影響で利用を控えていた、ニーズにあう事業者がなかったなどがありました。

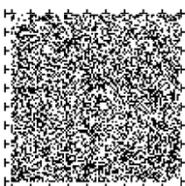
しょうじ 18さいみまん
障がい児(18歳未満)を対象とした調査結果です。

今回、障害児通所給付決定を受けているお子さんを対象に調査を行いました。手帳を所持しているお子さんや、発達に課題があり、支援の必要なお子さんが対象となっており、以下、「障がい児等」「お子さん」等と記載いたします。

たいしょうしょうじとう
【対象となっている障がい児等について】

- ▶やく1わり しんたいしょうがいしやてちよう もって
約1割が身体障害者手帳を持っています。
- ▶3.5わり りよういくてちよう もって
3.5割が療育手帳を持っています。
- ▶やくはんすう はったつしょうがい しんだん
約半数が発達障害の診断をされたことがあります。
- ▶やく1わり いりようてきけあ うけて
約1割が医療的ケアを受けています。

- 身体障害者手帳は、約1割のお子さんが持っています。障がいの内容としては、「肢体不自由(下肢)」が最も多く71.4%、次いで「肢体不自由(体幹)」が57.1%でした。
- 身体障害者手帳を持っている14人のうち、医療的ケアを受けているのは6人でした。
- 3.5割のお子さんが、療育手帳を所持していると回答されました。最も多い等級は「Bの2」で45.5%でした。
- 48.4%が発達障害と「診断されたことがある」と回答されました。
- 医療的ケアについては、8.9%が受けている状況にあります。受けている医療的ケアとしては「排泄のケア」が最も多く、次いで「呼吸のケア」「摂食・嚥下のケア」「薬剤の持続的な投与などの特別なケア」でした。



がいしゅつ
【外出について】

がいしゅつじ しゅだん とほ じかようしゃ かいどう おおく 8わりいじょう
▶外出時の手段は、徒歩・自家用車との回答が多く、それぞれ8割以上でした。

がいしゅつ かんして こまって とく もっともおかった
▶外出に関しては、「困っていることは特にない」が最も多かったです。

- 外出時の手段は、「徒歩」「自家用車」「電車」「自転車」の回答が多くみられました。
- 困っていることは、「困っていることは特にない」が51.6%ですが、療育・病院への送迎を家族が行っていることや、常に通学への付添が必要であることもあがっています。

げんざい くらし
【現在の暮らし】

ぜんいん ごかぞく くらして
▶全員がご家族と暮らしています。

ほごしゃ ともばたらき ごかてい やく6わり
▶保護者が共働きしているご家庭は約6割です。

ほごしゃ はたらいて あいだ がっこう ほうかごとうでいさーびす すごして こ やくはんすう
▶保護者が働いている間は学校や放課後等デイサービスで過ごしているお子さんが約半数です。

ほごしゃ しゅうろう かんして こまり いちばんおかった りょういく つうがく つういん すけじゅーる ちようせい
▶保護者の就労に関する困りごとで一番多かったものは、療育・通学・通院とのスケジュール調整でした。

- 保護者の就労状況は、「父(又は母)がフルタイム勤務、母(又は父)がパート・時短勤務」が43.9%と最も多くなっています。「両親ともにフルタイム勤務」との回答は15.3%でした。
- 保護者の就労に関する困りごととしては、療育・通学・通院とのスケジュール調整と回答された方が32.5%でした。その他、子どもが病気の時や土日祝日の預け先がないとの声も多くあがっています。

み まわり かいじょしゃ
【身の回りの介助者】

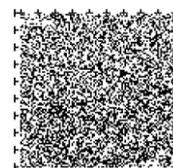
み まわり かいじょ ひつよう こ やく6わり
▶身の回りの介助が必要なお子さんは約6割です。

かいじょしゃ おや もっとも
▶介助者は、親が最も多くなっています。

かいじょしゃ ねんれい 23さいいじょう 64さいみまん もっともおおく
▶介助者の年齢は23歳以上64歳未満が最も多くなっています。

かいじょ しんぱい てん うかがった しんぱい てん とく やく4わり もっともおおく
▶介助について心配な点を伺ったところ、「心配な点は特にない」が約4割で最も多くなっています。

- 介助者は、親が最も多くなっています。兄弟姉妹という回答も2割以上ありました。
- 介助者の年齢は23歳以上64歳未満が9割以上を占めていますが、15歳未満という回答も1割以上ありました。
- 介助者について心配な点を伺ったところ、「心配な点は特にない」という回答が最も多く、次いで多かったのは「介助者が仕事や学校を休むほか、遅刻や早退する必要がある」という回答でした。



かぞく たいするしえん
【家族に対する支援】

- ▶子どもとの関わりを学ぶ場が必要と考えている方は約7割です。
- ▶学ぶ場が必要と考えている人のうち、実際に学ぶ場に参加したことのある方は約4割です。
- ▶学ぶ場に参加するために必要な条件として、最も多い回答は「土日祝日の開催」です。
- ▶子育てや発達の相談先は、通所している療育施設という回答が最も多くなりました。

- 「学ぶ必要を感じていない」「わからない」という回答は約3割でした。
- 関わりを学ぶ場に参加する要件は、「土日祝日の開催」のほか「ウェブ会議システム(ZOOM など)での開催」や「開催時間が短い(1時間以内)こと」という回答も多くみられました。
- その他の回答で多かったものは、開催する時間帯への要望でした。
- 子育てや発達の相談先は、療育施設のほか、ご家族、医療機関という回答があがりました。

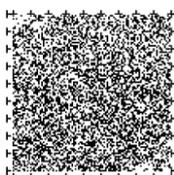
しんがたころなういるす りゅうこう おこった
【新型コロナウイルスの流行により起こったこと】

- ▶新型コロナウイルスの流行により起こったことで最も多い回答は、「子どもが家族・親戚・友人などに会う機会が減った」でした。
- ▶代替支援の利用希望については、約7割が「現在代替支援を受けておらず、今後も必要性は低い」と回答しました。

- 新型コロナウイルスの流行により起こったこととして次に多かったものは「子どもの外出の頻度が少なくなった」でした。
- その他の回答では、子どもがマスクをつけられないという困りごとが多くみられました。
- 代替支援については、「支援を受けたことがあるがやめた」という回答や、預かりではないため保護者の負担があるという回答がみられました。

りょういく
【療育について】

- ▶療育に通い始めてからの年数は、「7年以上」が最も多くなっています。
- ▶通っている療育施設の数、「市内1か所のみ」が最も多くなっています。
- ▶療育にかかるお金は、ひと月に「1円以上5千円未満」が最も多くなっています。
- ▶療育を始めるきっかけで最も多いものは、「子育てをしていて発達が心配になった」という回答でした。
- ▶療育施設や市に求めることは、「支援の専門性や質の向上」でした。



- 療育を通い始めてからの年数では「7年以上」が24.2%で、次に「1年目」が17.2%となっています。
- 通っている療育施設の数では「市内1か所のみ」は38.2%、次いで「市内外合わせて2か所以上」が29.3%です。
- 療育を受けようと思ったきっかけについては、「子育てをされていて、発達が心配になった」が60.5%で最も多く、次いで、「集団生活に不安があった」が40.1%、「園や学校の先生から指摘があった」36.9%となっています。
- 療育施設や行政に充実を求めることについては、「支援の専門性や質の向上」が58%と最も多く、次いで、「学習支援」47.8%、「送り迎えや通園、通学の支援サービス」42%となっています。

おこ さーび すりようじょうきょう こんご3ねんいなく りようよてい)
【お子さんのサービス利用状況と今後3年以内の利用予定】

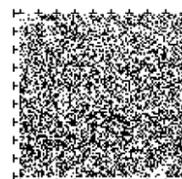
- ▶新たに利用予定のサービスで多かったものは、「放課後等デイサービス」です。
- ▶増やす予定で多かったものは、「児童発達支援」と「放課後等デイサービス」です。
- ▶利用を希望しているが利用していないサービスは、「放課後等デイサービス」、「保育所等訪問支援」という回答が多くありました。
- ▶利用を希望しているが利用していない理由は、「利用の基準に当てはまらず利用できないため」という回答が多くありました。
- ▶今後3年以内に利用したい障害福祉サービスは「重症心身障害児を支援する児童発達支援・放課後等デイサービス」が最も多い回答でした。

- 利用を希望しているが利用していないサービスは、「放課後等デイサービス」が27%で最も多く、次いで、「保育所等訪問支援」が24.3%となっています。
- 利用希望があるが利用していないサービスがあると回答した方について、利用していない理由を伺いました。最も多かったものは、「利用の基準に当てはまらず利用できないため」で35.1%となっています。次いで、「サービスがあることを知らなかったため」が24.3%でした。

げんざいうけて きょういく ほいく いりようとう)
【現在受けている教育・保育・医療等】

- ▶「個別支援学級（小中学校において障害の種別ごとに編成された、いわゆる特別支援学級）に通学」との回答が最も多く、約3割でした。
- ▶「その他」の回答で多かったものは、こども発達センターの利用、病院（薬の処方・カウンセリング）でした。

- 現在受けている教育・保育・医療等では、「個別支援学級（小中学校において障がいの種別ごとに編成された、いわゆる特別支援学級）に通学」が最も多く、32.5%となっています。次いで、「保育園・幼稚園・認定こども園（いずれも加配保育士等あり）への在籍」が23.6%でした。



- その他の内容は、こども発達センターの利用が5件、病院で薬のみ処方が3件、病院でカウンセリングが1件のほか、コミュニケーションに特化した私立の通信制高校や、発達障がいに関心を持ってもらえる習い事という回答がありました。

【今後3年間で利用したい18歳以上から利用できるサービス】

▶新たに利用したい18歳以上から利用できるサービスでは、「就労継続支援A型・B型」が最も多くなっています。

- 新たに利用したい18歳以上から利用できるサービスには、「就労継続支援A型・B型」が52.6%と最も多く、次いで「共同生活援助(グループホーム)」が38.9%となっています。

以上が、調査結果の概要です。

第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画を作るにあたっての素案(おおもとなる案)にも

音声コードをつけてありますので、ご活用ください。また、案の概要の読み上げ音声を入れたCDを

お配りしています。ご希望の方は、ご連絡ください。

白井市役所 障害福祉課 047-497-3483

